

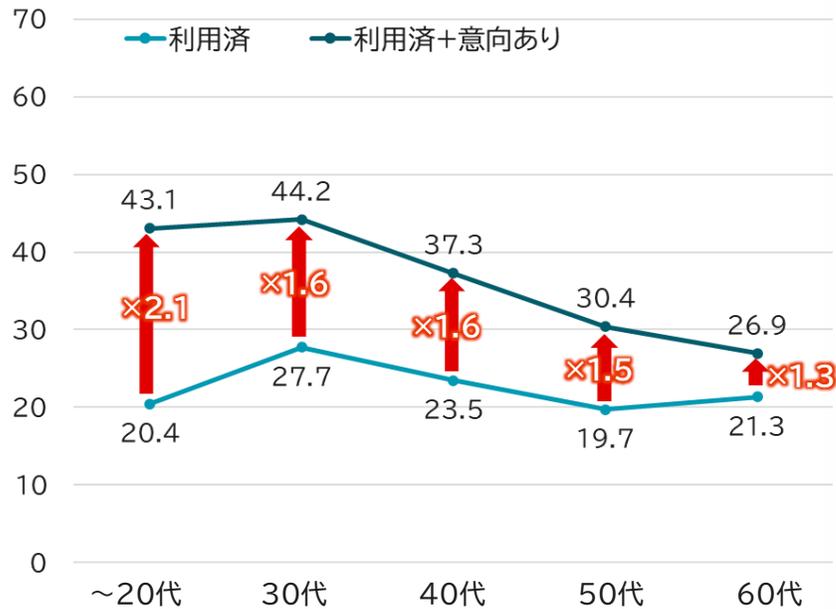
2026年3月

「住まいと資産形成に関する意識と実態調査」(2026年)より

NISAの認知・利用事情(2026年)

— 18-39歳では、4割以上がNISA利用に前向き —

図表7-1より NISA利用者・利用意向者



三井住友信託銀行
三井住友トラスト・資産のミライ研究所
研究員 清永 遼太郎

NISA



1. 調査名：「住まいと資産形成に関する意識と実態調査」(2026年)
2. 調査対象：全国の18～69歳 ただし関連業種(金融、調査、マスコミ、広告)従事者を除く
3. 調査方法：WEBアンケート調査
4. 調査時期：2026年1月
5. サンプルサイズ：11,135
6. サンプルの属性(年代別)

18-29歳	2,041
30-39歳	1,878
40-49歳	2,326
50-59歳	2,676
60-69歳	2,214

7. 備考：端数処理の関係上、割合については合計で100%とならない場合があります

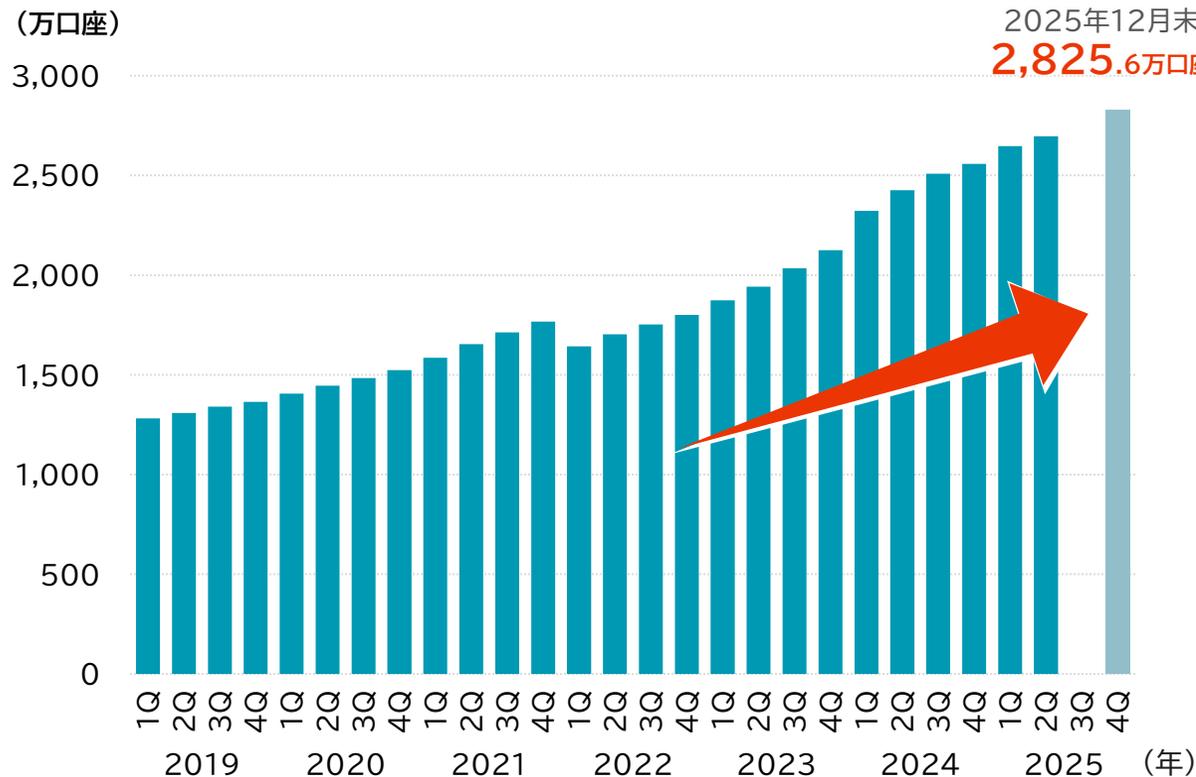
1 NISAの認知度ならびに利用状況

- NISA口座数は2024年に急伸も若干鈍化傾向
- 資産形成制度の認知度は、NISAがトップでiDeCoが2位
- 3人に2人はNISAを認知するも、利用割合は2割強
- 18-39歳では、4割以上が「NISA利用済もしくは利用意向あり」
- 「NISA利用前向き層」が増える一方で、「NISA意向なし層」も同数程度
- 30-60代はNISA利用前向き層が増加 60代は「NISA意向なし層」が高止まり

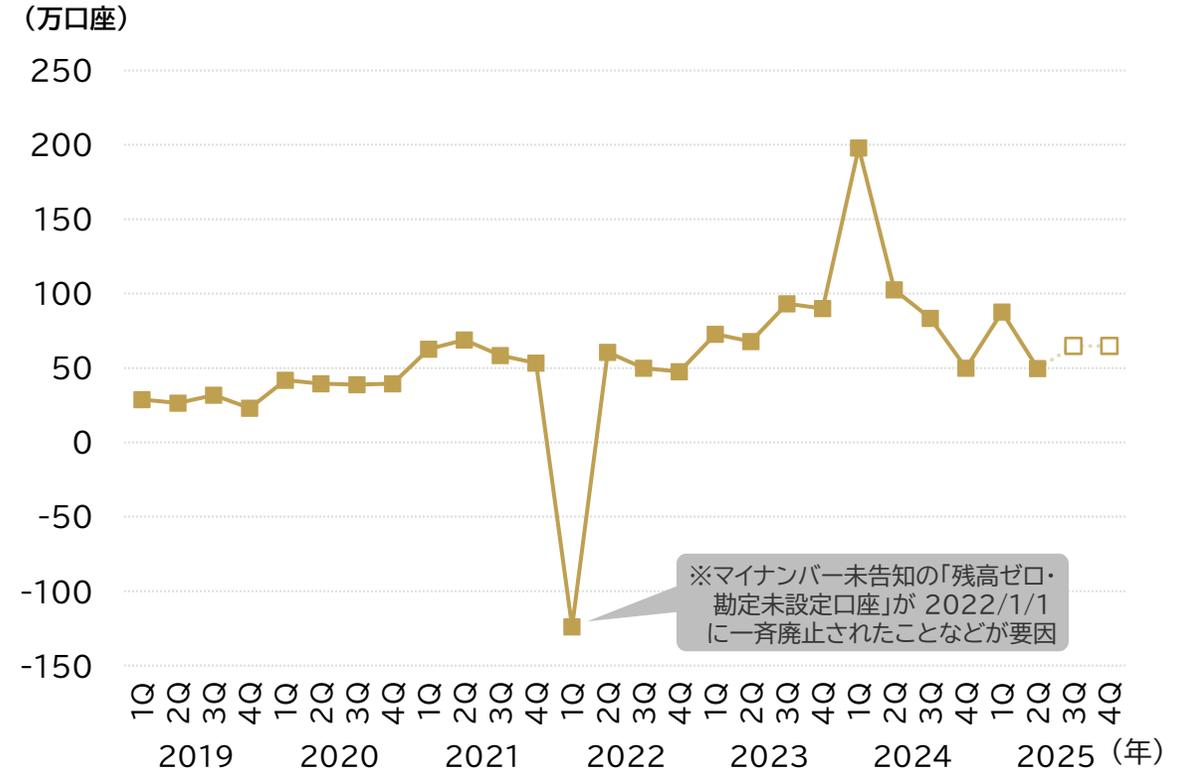
NISA口座数は2024年に急伸も若干鈍化傾向

- NISA口座数は、長期的に伸びてきているが、特に2024年/新しいNISA開始時の伸びは顕著
- 一方で、直近の伸びは若干鈍化傾向

図表1 四半期ごとのNISA口座数の推移(2019年3月末~2025年12月末)



四半期毎 NISA口座開設数の伸び



※出所:金融庁HP 利用状況調査:NISA特設ウェブサイト:金融庁 (fsa.go.jp)

2023年までのNISAは一般NISAとつみたてNISAの口座数の合計。2025年3Qはデータなし。2025年4Qは速報値。2025年3Q・4Qにおける口座開設数の伸びは、3Q・4Qで同数の伸びと仮定したものを点線表示

資産形成制度の認知度は、NISAがトップでiDeCoが2位

- 資産形成のための制度として「知っている」との回答割合は、NISA（少額投資非課税制度）がトップ。どの年代でも半数以上
- 次いで「個人型確定拠出年金(iDeCo)」や「社員向け貯蓄(財形・社内預金)」が続く
- 一方、「この中にはひとつもない」との回答はどの年代においても約3割存在する

図表2 「資産形成のための制度」の認知度（複数回答可）

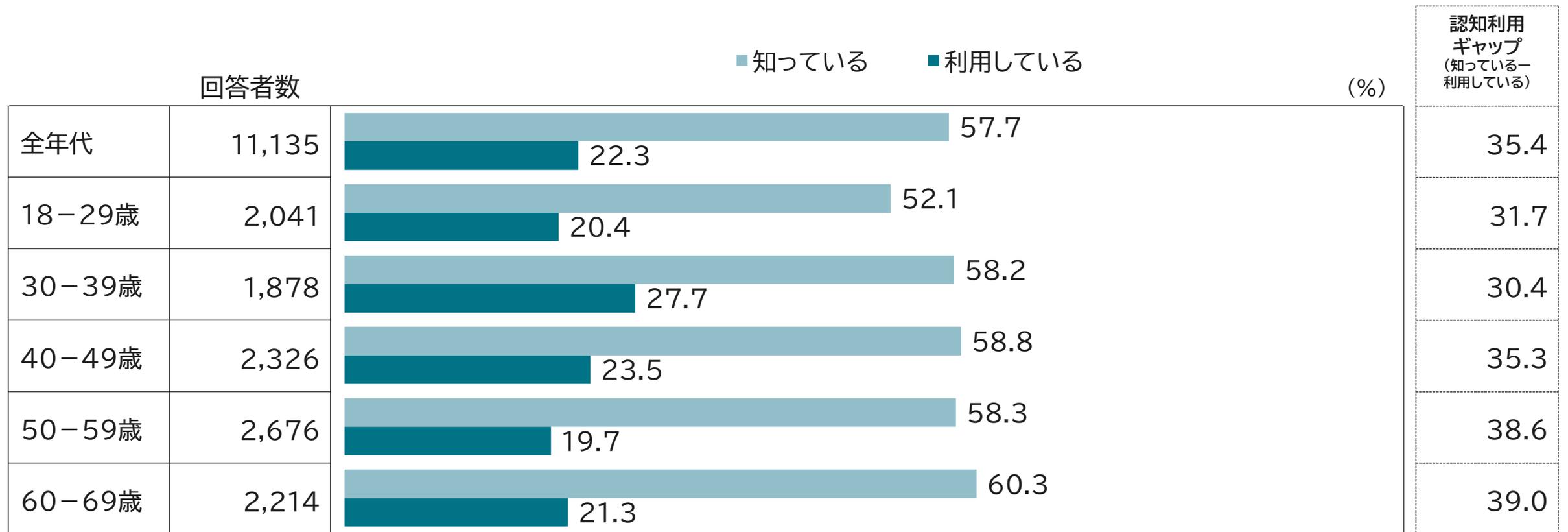


回答者数		社員向け貯蓄 (財形・社内預金)	社員持ち株会	ストックオプション・株式報酬制度など (業務インセンティブとしてお金ではなく自社株式を与える制度)	NISA (少額投資非課税制度)	個人型確定拠出年金 (iDeCo(イデコ))	企業型DC (確定拠出年金)	この中にはひとつもない
全年代	11,135	 30.1%	25.5%	9.5%	 57.7%	 42.6%	27.0%	33.8%
18-29歳	2,041	18.3%	16.4%	8.4%	52.1%	34.3%	18.1%	37.7%
30-39歳	1,878	25.2%	22.4%	10.5%	58.2%	46.6%	31.1%	35.2%
40-49歳	2,326	30.3%	25.0%	9.6%	58.8%	45.0%	26.9%	32.4%
50-59歳	2,676	35.8%	30.1%	10.2%	58.3%	45.1%	31.3%	32.5%
60-69歳	2,214	38.0%	31.3%	9.0%	60.3%	41.0%	26.4%	32.0%

3人に2人はNISAを認知するも、利用割合は2割強

- NISAに関する「認知」と「利用」のギャップを分析。「知っている」と答えた割合は全体で約6割の水準
- 一方で、「利用している制度」としてNISAを回答した割合は、全体で22.3%にとどまる。年代別では30代がトップ(27.7%)
- 認知ー利用のギャップは50-60代が大きい

図表3 NISAを「知っている」・「利用している」※の割合

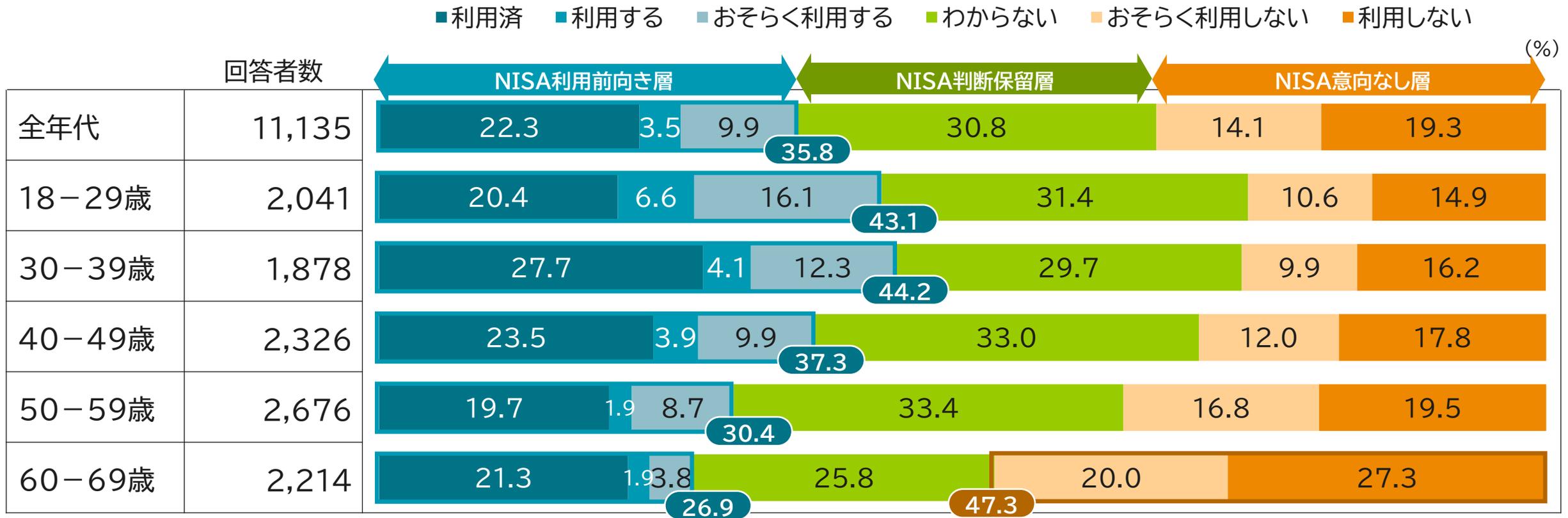


※社員向け貯蓄(財形・社内預金),社員持ち株会,ストックオプション・株式報酬制度など(業務インセンティブとしてお金ではなく自社株式を与える制度), NISA(少額投資非課税制度),個人型確定拠出年金(iDeCo(イデコ)),企業型DC(確定拠出年金),この中にはひとつもない,から複数回答

18-39歳では、4割以上が「NISA利用済もしくはは利用意向あり」

- 「NISA利用済+利用する+おそらく利用する」をNISA利用前向き層、「おそらく利用しない+利用しない」をNISA意向なし層と定義
- NISA利用前向き層は35.8%であり、NISA利用者(22.3%)の1.6倍
- 18-39歳ではNISA利用前向き層が4割超である一方、高齢層ほどNISA意向なし層が多く、60代では47.3%に上る

図表4 NISA利用者・利用意向者の割合



「NISA利用前向き層」が増える一方で、「NISA意向なし層」も同数程度

- 新しいNISAが始まった2024年1月時点の調査から3カ年で比較
- **NISA利用前向き層**は着実に増加(30.8%⇒34.1%⇒35.8%)
- **NISA意向なし層**は2024年から2025年にかけて増加したものの、今回は減少(29.0%⇒36.7%⇒33.4%)

図表5 NISA利用者・利用意向者の割合の時系列比較(2024年-2026年)

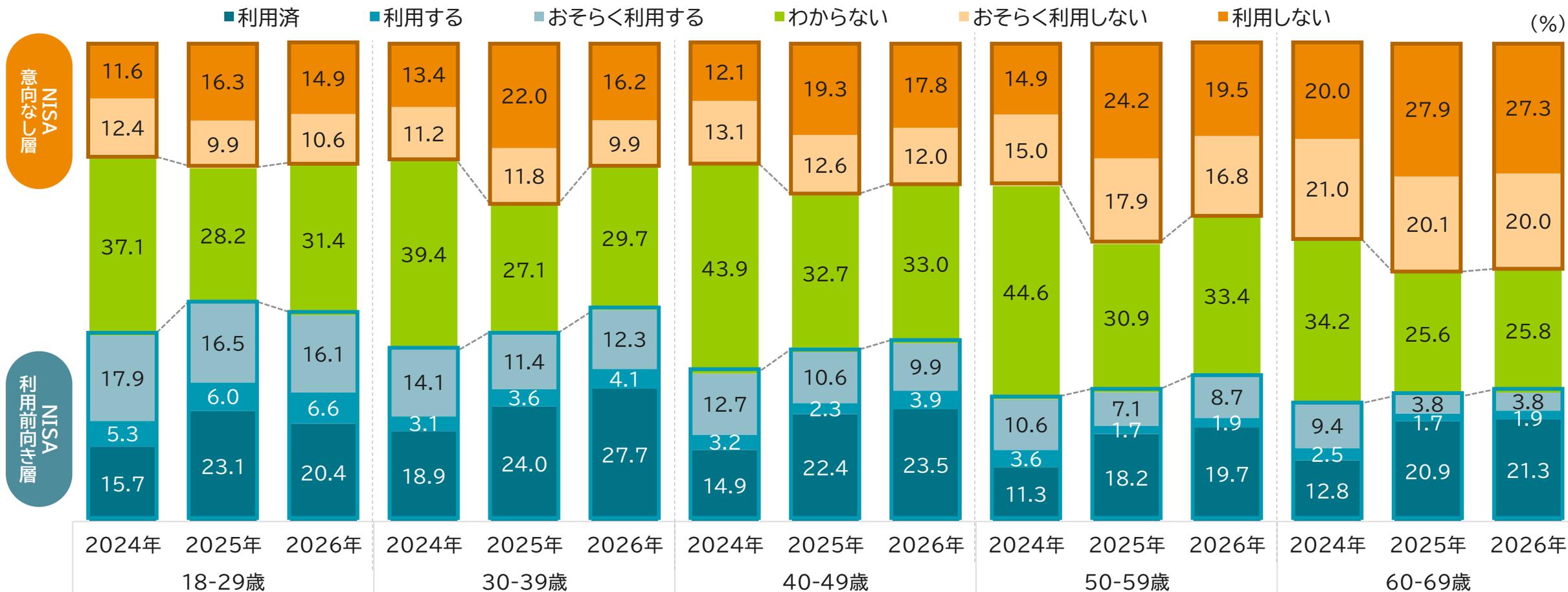
■ 利用済 ■ 利用する ■ おそらく利用する ■ わからない ■ おそらく利用しない ■ 利用しない



30-60代は「NISA利用前向き層」が増加 60代は「NISA意向なし層」が高止まり

- 年代別に、NISAの利用・利用意向状況を3カ年で比較
- ~20代ではNISA利用前向き層が若干減少したが、それ以外の層は増加。60代はNISA意向なし層が高止まり

図表6 【年代別】NISA利用者・利用意向者の割合の時系列比較(2024年-2026年)



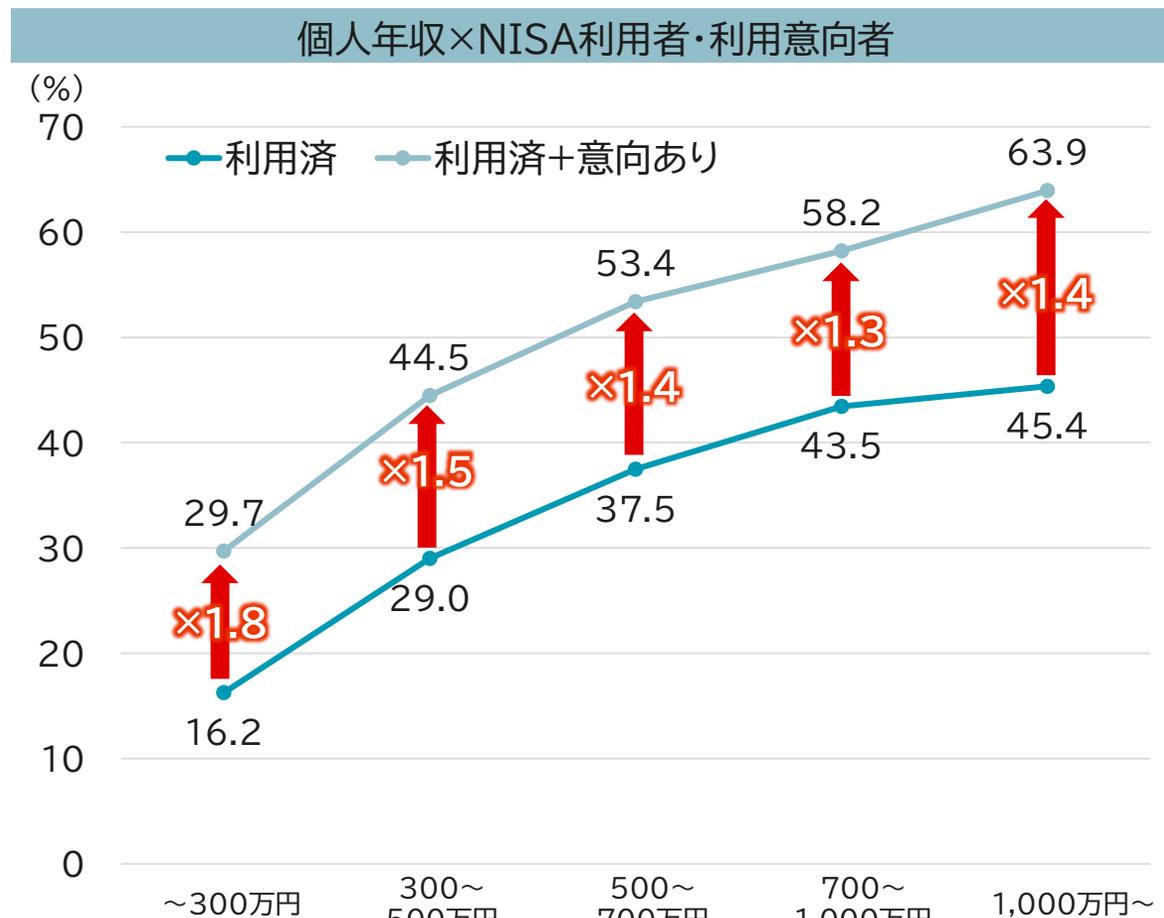
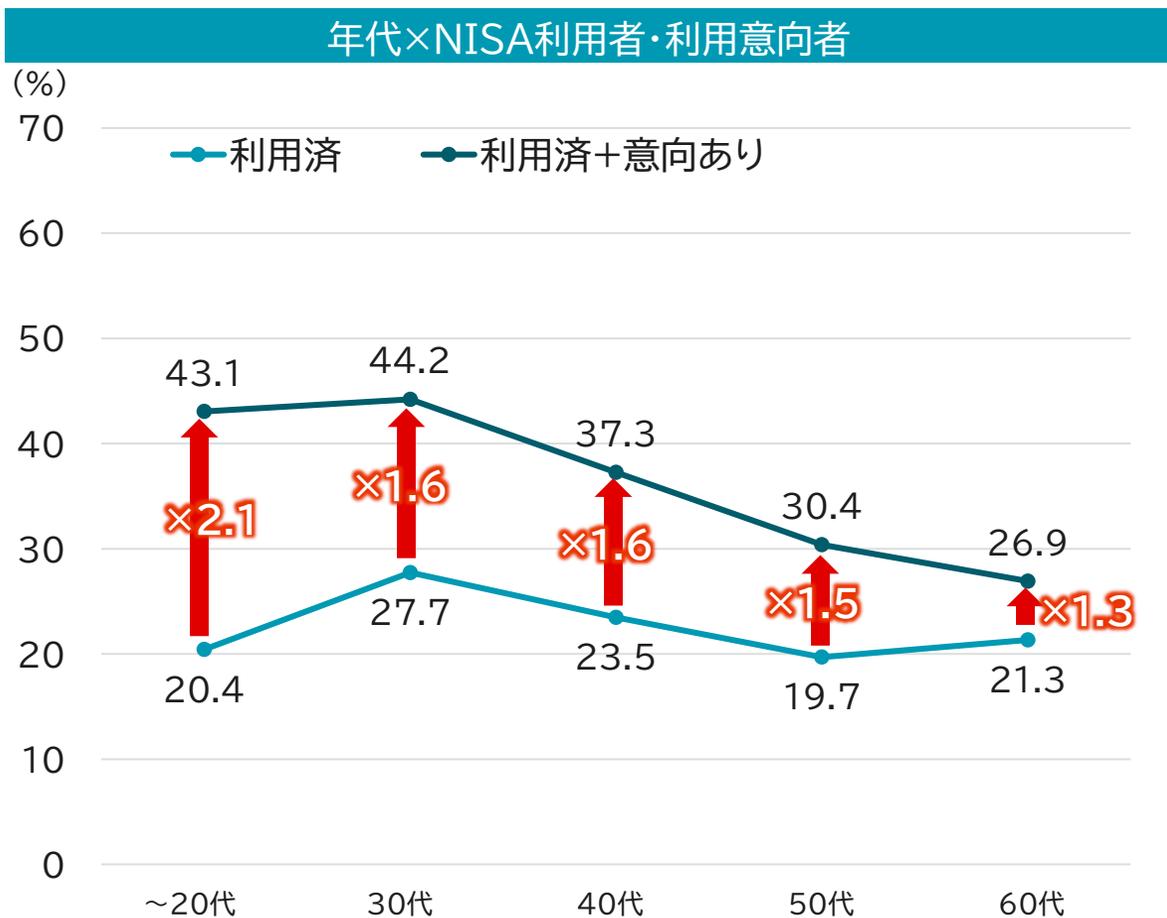
2 家計状況別 NISAの利用・利用意向状況

- 20代では、NISA利用者の2倍の人がNISAを利用するポテンシャルあり
- NISAの利用が進んでいるのは、大学生等～社会人で金融教育を受けた人
- NISAの利用が進んでいるのは、ライフプランを立てている人
- NISA利用率は首都圏がトップ、NISA利用意向者を含めると近畿圏がトップ

20代では、NISA利用者の2倍の人がNISAを利用するポテンシャルあり

- 【左図】年代別で「NISA利用済」ならびに「NISA利用済+意向あり(= **NISA利用前向き層**)」を分析。~20代は利用者が最大2.1倍になるポテンシャルあり
- 【右図】高年収帯ほどNISAの「NISA利用済+意向あり(= **NISA利用前向き層**)」が多い。各年収帯で最大1.4倍~1.8倍になるポテンシャルあり

図表7-1 年代ならびに個人年収別 NISA利用者・利用意向者の割合(グラフ)



【参考】年代ならびに個人年収別 NISA利用者・利用意向者の割合(表)

図表7-2 年代ならびに個人年収別 NISA利用者・利用意向者の割合(表)

		NISA利用済				
		~300万円	300~500万円	500~700万円	700~1,000万円	1,000万円~
全年代	回答者全体	4,173	1,990	1,147	705	355
	NISA利用者数	678	577	430	307	161
	NISA利用率	(16.2%)	(29.0%)	(37.5%)	(43.5%)	(45.4%)
18-29歳	//	941	467	172	47	40
	//	133	141	82	17	16
	//	(14.2%)	(30.1%)	(47.7%)	(35.4%)	(39.4%)
30-39歳	//	667	394	288	105	47
	//	96	148	132	72	21
	//	(14.4%)	(37.6%)	(45.8%)	(68.3%)	(45.9%)
40-49歳	//	787	392	282	211	82
	//	131	119	102	94	38
	//	(16.6%)	(30.4%)	(36.3%)	(44.5%)	(46.4%)
50-59歳	//	920	340	271	242	133
	//	132	69	76	86	70
	//	(14.4%)	(20.2%)	(28.1%)	(35.6%)	(52.1%)
60-69歳	//	859	397	133	100	53
	//	185	101	37	38	16
	//	(21.5%)	(25.4%)	(27.7%)	(37.9%)	(30.6%)

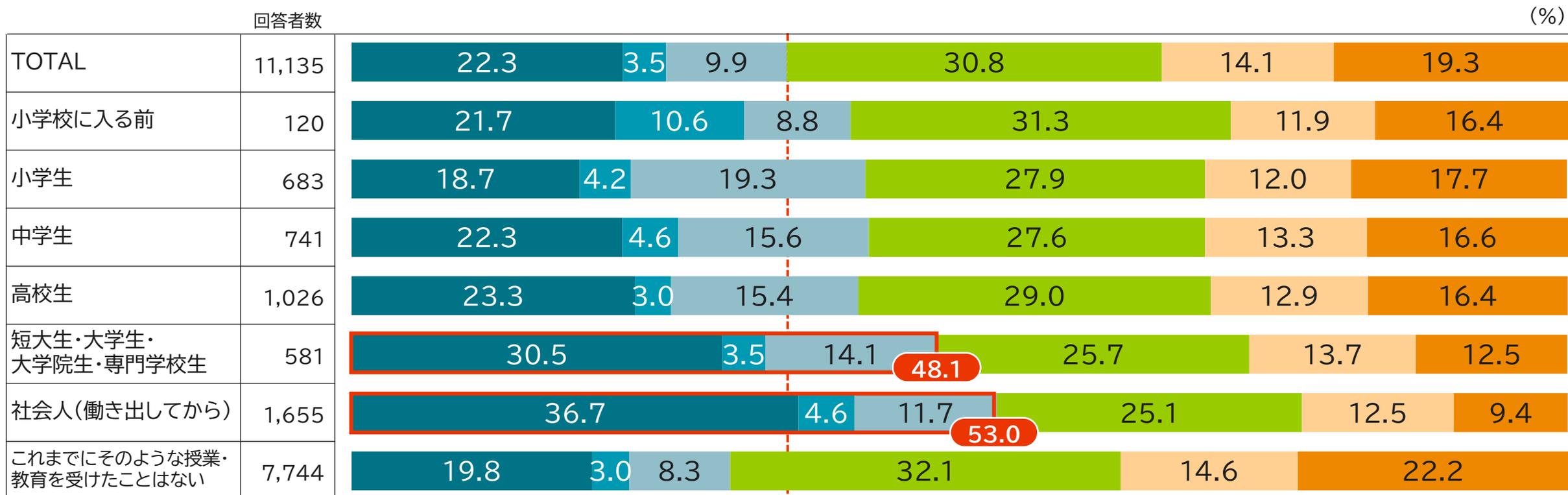
		NISA利用済+意向者				
		~300万円	300~500万円	500~700万円	700~1,000万円	1,000万円~
全年代	回答者全体	4,173	1,990	1,147	705	355
	利用意向層	1,239	885	612	411	227
	利用意向率	(29.7%)	(44.5%)	(53.4%)	(58.2%)	(63.9%)
18-29歳	//	941	467	172	47	40
	//	364	256	121	27	27
	//	(38.6%)	(54.8%)	(70.1%)	(57.0%)	(68.4%)
30-39歳	//	667	394	288	105	47
	//	193	228	192	88	31
	//	(28.9%)	(57.9%)	(66.7%)	(83.6%)	(66.4%)
40-49歳	//	787	392	282	211	82
	//	248	163	143	139	57
	//	(31.5%)	(41.7%)	(50.7%)	(65.7%)	(69.5%)
50-59歳	//	920	340	271	242	133
	//	209	110	109	110	91
	//	(22.7%)	(32.3%)	(40.2%)	(45.3%)	(67.9%)
60-69歳	//	859	397	133	100	53
	//	226	127	47	48	21
	//	(26.4%)	(32.1%)	(35.7%)	(47.6%)	(39.8%)

*年収について「わからない、答えたくない」を除く
© SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED All rights reserved.

- 大学・社会人などの「行動」に移せるタイミングでの金融教育経験者はNISA利用率が高い
- 社会人で学んだ群におけるNISA利用前向き層は5割超え

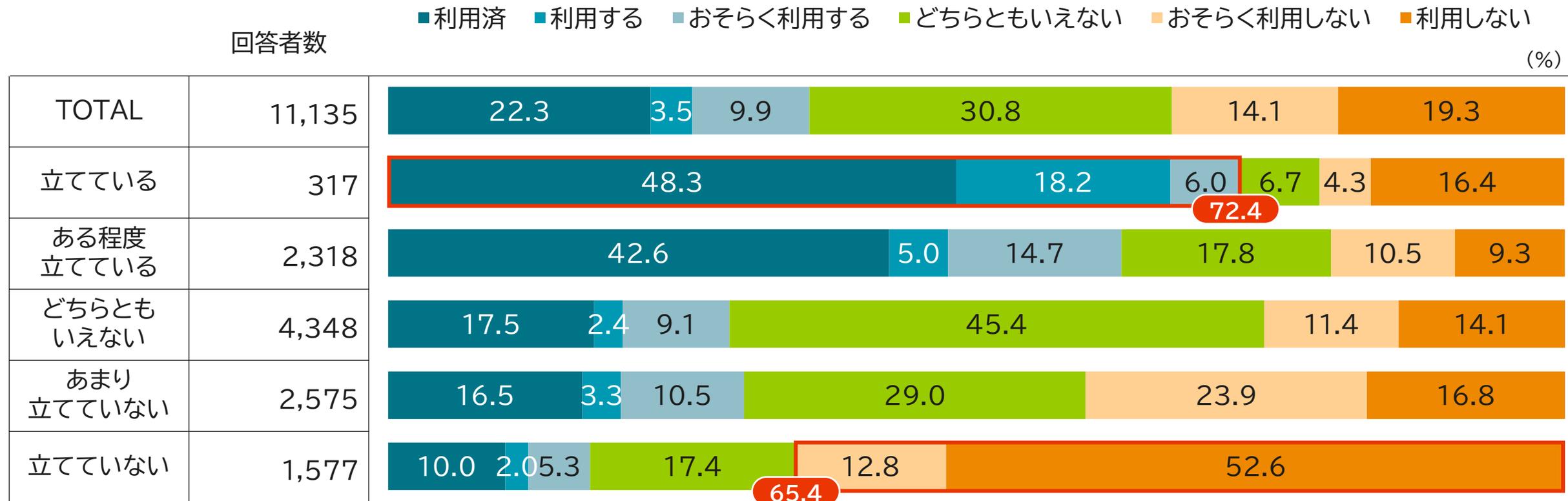
図表8 金融教育を受けた時期(複数回答可)とNISA利用者・利用意向者の割合

■ 利用済 ■ 利用する ■ おそらく利用する ■ どちらともいえない ■ おそらく利用しない ■ 利用しない



- ライフプランを立てている人の方が、相対的にNISAを利用している。「立てている」と答えた人は、約4割がNISAを利用
- 一方、立てていない人においては、**NISA意向なし層**が6割以上を占める

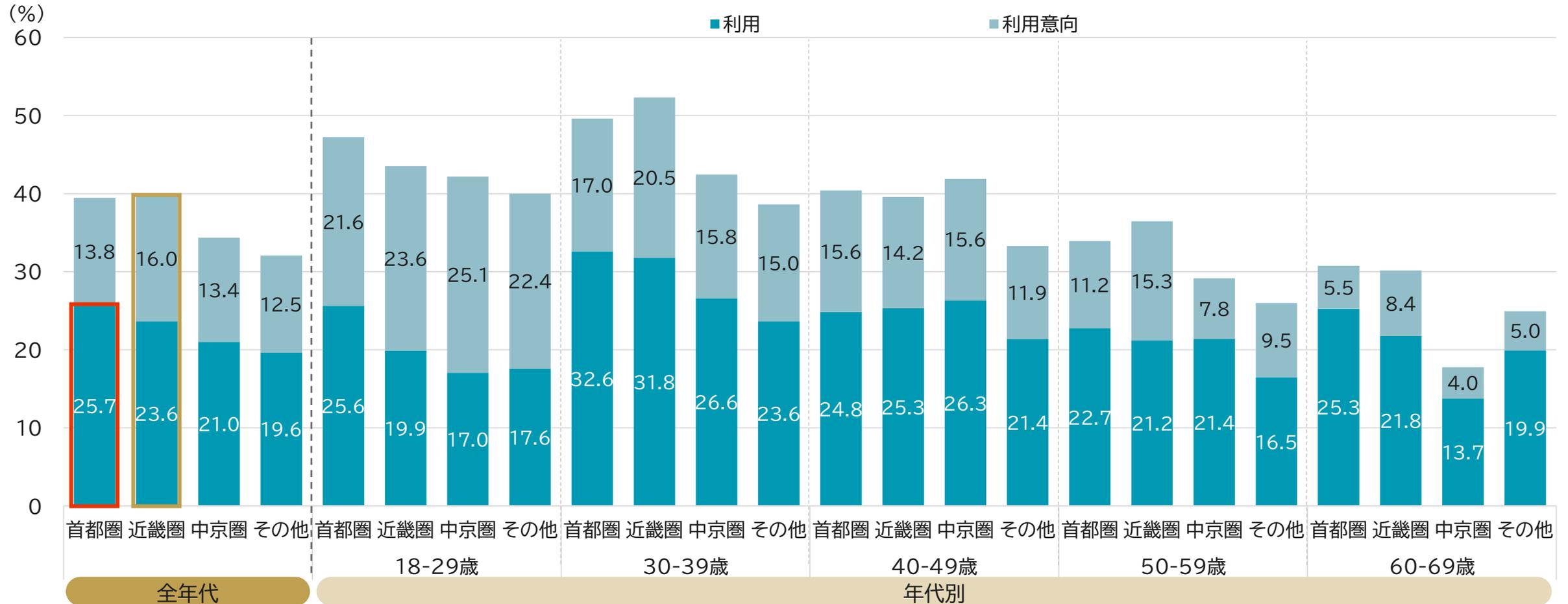
図表9 ライフプランを立てている度合いとNISA利用者・利用意向者の割合



【ご参考】NISA利用率は首都圏がトップ、NISA利用意向者を含めると近畿圏がトップ

- 居住エリア別でNISAの利用率を分析。40代を除く全ての年代で首都圏が利用率トップ。40代のみ中京圏がトップ
- 利用意向者も含めると、全年代では近畿圏がトップ。年代別では30代・50代では近畿圏、40代は中京圏がトップ

図表10 居住エリア別 NISA利用者・利用意向者の割合



ご留意事項

- 本資料は、情報の提供を目的として作成しており、具体的な対応についてはお客様のご判断により行っていただくこととなります。お客様のご判断によって行ったご対応の結果生じた損害につきましては、弊社は一切責任を負いません
- 本資料は、作成日において弊社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成したものであり、その情報の正確性・確実性について保証するものではありません。また、今後の金融情勢・社会情勢等の変化により、内容が変更となる場合がございます
- 本資料に係る一切の権利は、他社資料の引用部分を除いて三井住友信託銀行に属し、いかなる目的であれ本資料の一部または全部の無断での使用・複製は固くお断り致します。本資料の一部または全部を転載・複製する際は、弊社にご照会くださいますようお願い申し上げます

ご照会先

三井住友信託銀行
三井住友トラスト・資産のミライ研究所
mirai@smtb.jp

作成日:2026年2月26日
564-25-2076